

令和4年度 第3回地域戦略セミナー

議事録

■開催日	令和 4年 7月19日 (火) 13時30分～15時30分		
■開催方法	オンライン (ZOOM)	■出席者	36 名 (別紙出席票を参照)
■概要報告			
◇ 開会			
◇ あいさつ			
・ 小林理事長より 開会の挨拶があった。			
・ 清水アドバイザー (東京都立大学 都市環境学部観光科学科 教授) より 冒頭の挨拶があった。			
◇第1部 地域戦略セミナー			
「他地域の看板商品創出事業の取り組み～茨城県潮来市の視察から」 (清水アドバイザー)			
茨城健潮来市の視察から～			
水路の力で成り立ってきた地域。水郷地域で嫁入り船の文化がある。			
船大工が亡くなり船大工は飯能市の方に協力してもらい、職人の育成を図る。インバウンドも含め、看板商品として作り上げていく企画。			
まずは船を作ってみる。船頭が飯能に泊まり込んで作っている。8月頃船が出来上がり、モニターツアーを行う。最終的には来年度に向けてインバウンドプロモーションを行っていく。和メージングが入り、まずは中華圏、特に台湾に向けてまずは取り組んでいく。			
あやめ園 (5月下旬-6月中旬) でここの観光産業の1年分を稼ぐ。嫁入り船の出発点として石の蔵をリノベーションして集客施設にしている。古民家を回収し宿泊施設として機能している。			
源頼朝公が創設したと言われている長勝寺、観光スポットが固まっている。これを利用する。			
アクセスは鉄道駅はあるが、1時間に1本。高速バスは東京から20分おきに出ている。			
前川という利根川の支流。塩の香りがするエリア。嫁入り船用の和船。新造船を建造中。			
護岸の整備も県の事業で行った。			
今年はアヤメのシーズンに27組を受け付けた。アヤメの管理は市民が協力し4年間で区画ごと更新している。			
嫁入り船のスタート地点、長勝寺の住職が地域観光に造詣が深い。			
明治時代の有力者の古民家が市に寄贈された。 ⇒市が耐震改修工事などリノベーションし、簡易宿泊所の許可⇒(株) いたこに管理を委託 (DMC)。1棟貸で1日50,000円。			
石の蔵～倉庫を回収し交流拠点施設に転換。地方創生事業でブランド米に取り組む。			
まこもを健康食品として開発・販売し6次産業課を図っている。			
今の観光課長の前のポストが秘書課だった。市長の直下で地方創生事業をタッグを組んで展開してこられた方。今観光に来られ、ノウハウをDMCと共に意欲的に展開しておられる。			
域内連携では不採択。地方創生ものだけではなく、観光でも予算を取りたいと頑張っ、今回看板商品で採択され注目される事業の1つとなった。観光だけではなくベースに5-6年頑張ってきた総合的な取り組みが効いてきている感じがする。昨年の誘客多角化から地域連携から看板商品までの展開を見ているとベースの地域づくりに乗っていかないとコンテンツが魅力的ではない、企画書を見ても目に刺さらない感じを今回の視察で受けた。			

1ヶ月しかない観光シーズンをどうやって通年化するかと、成田、茨城空港に近いメリットがある。便の都合で成田に前泊しないといけない需要、トランジットツアーの人などに最適な距離感とコンテンツ。工夫すればインバウンドに刺さるようなコンテンツにできる。うまくやれば伸びていくのではないかな。

◇第2部 戦略会議

1)新メンバーの紹介

- ・ 関東財務局 甲府財務事務所 事務所長 武藤様 / 総務課課長 大柴様 / 総務課企画係長 邑岡様
- ・ ジョルテ 平野様

2) 報告および質疑応答

各事業担当者より進捗状況について説明があった。

(配布資料参照)

1) 令和4年度 訪日外国人旅行者周遊促進事業

2) サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業

『地域資源を活用したサステナブルな未来創造事業』

3) 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業

『1,000mの天空リゾート八ヶ岳「澄みきった自分に還るフォレスト・ウェルネスツーリズム創出」事業』

4) 持続可能な観光推進モデル事業

(③持続可能な観光サービスを提供する地域の事業者における取組の促進事業)

5) 令和4年度地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 事業化支援事業

『野立てPVを活用した電気の地産地消モデル』

～バッテリー配達サービス×観光用電動モビリティシェアリングプロジェクト～

2) 観光地域づくりマネージャーミーティング報告 (雨宮MG)

毎月1回八ヶ岳観光圏の観光地域づくりマネージャーが八ヶ岳観光圏の課題や今後のことなどを話し合うマネージャーミーティングを開催しており、7月は14日に実施。担当マネージャーを決めるとともに各マネージャーに現場でおきている事柄について情報共有した。

次回は8月に開催予定。

(小林理事長)

部門をコンパクトにすべきということで、4つに分けた。環境の取組み状況に入れさせて頂いたのが今回の特徴。割り振りは事業に携わるか、関連する方を中心に行った。このような形でやっていくので、行政さんも官民連携でご協力をお願いしたい。

(事務局)

今回の戦略には、こちらの割り振りで進めていきます、宜しくお願いします。

3) 山梨県の観光動向について (公益社団法人やまなし観光推進機構 中村氏)

資料は楽天・じゃらん・JTBのそれぞれの宿泊者数の実数を伺って記録したもの。

宿泊者数については全体的に戻ってきているかと思う。インバウンドについてはまだまだ少ない状況であるが、国内は8割戻ってきている。

[山口専務理事のコメント]

6月は、じゃらん・楽天はTVCMを積極的に実施していた。県民割が多くの人に適用されなくても、コロナ前の数値を上回る(令和元年比、楽天136%、じゃらん111%、JTBは前年割れ)

団体・インバウンドがメインだった宿は、個人旅行に転換をはかっても、コロナ前には戻っていない。

GoTo再開への期待感はあるが、県民割の全国適用の方が山梨県はメリットはある。

数値は人泊で取っているが、単価の安いビジネスと、コロナ対応がしっかりとされているイメージの「高級旅館」が売れているので、単価の前年度比は5%ほどさらにあがっている。

(石川MG)

この週末本栖湖周辺で竜ヶ岳という山をガイドしていた。

コロナでお客様は戻ってきたが、渋滞問題。昨日は午前中は中央道上りは31km、帰りは40km以上渋滞。お客様は自然を求めて来られるが、結局そこがネックになり早め早めに帰ろうという形になると、八ヶ岳は機会損失をしている。少しずらして夕飯食べて帰ろうとか、今一度考える必要があるのかなと。中部縦貫自動車道、静岡にも道が出来たので、お客様は色々なところから見えているので交通網に則した対策もしているかと思う。

5) 清水アドバイザーより総括

石川MGがおっしゃったことの続き。そういう問題意識を以って私自身かつてそういう趣旨で研究していた。楽先生と引き続きやっているが

コロナになってマイクロツーリズムのような考えができてくると、旅が近距離になって渋滞がコロナ以前より状況によってはひどいのではないかと。トンネルの計画もあるが、できても10年とかかかるので待てない。八ヶ岳サイドだけではなく、富士五湖と連携して小仏トンネルに集中させないために旅行客をどう留めておくのが重要だと思う。考え方によっては松本とか遠くからの客を八ヶ岳で一時的に下すこともできる。アイデア1つで新たな顧客層に繋がる。そういった議論をあらためてここでしてもよいかと思う

この数年間、色んな事業を採択され色んなコンテンツを作ってきて、実証実験もして、そのうちの多くはまだ商品として一応は残っているということだが、観光圏のHPも含め、いろんなHPを見に行った時に、どれがそもそも元の事業なのかかわかるといい。一方的にお金を出して何の検証もされない、と同僚と問題意識を持っている。観光庁に相談しこれまでの地域の報告書を全部頂いた。長い目で見て数年かけて追ってみようと思っている。採択を受けたものが1年後2年後3年後にどうなったのか、ある程度閲覧できるようになると助かる。観光圏のHP等で定期的にUPして見せていくことも責任ある姿ではないか。スタッフの数も多なくて簡単ではないと思うが、事業がどうなったのか可能な形でどこかのサイトで対外的に説明していくのは重要ではないか、と思った。

いずれにしても、新しい事業もたくさんあって頂いて、ますます色んな活動が充実して展開されているのは非常に良いことだと思う。今後もこのペースで進めて頂きたい。

◇閉会

■特記事項（写真・模様等）

